

# 経営理念

Nittoグループの使命(Mission)、その実現に向けた考え方を示すVision、さらには身につけるべき価値観、心構え、行動基準で形作られたThe Nitto Way。これらを体系化したものが、Nittoグループの経営理念です。



## Mission

### 新しい発想で お客様の価値創造に貢献します。

Nittoグループは、お客様のお役に立つ製品・システム・アイデアを、徹底して追求する姿勢を常に忘れずにいたいと考えています。直接関わるお客様はもちろんのこと、その先にあるすべてのステークホルダーの方々に、安全と繁栄、快適さ、そして豊かさをお届けすることが、私たちの使命(Mission)です。

## Vision

### Creating Wonders

[Mission: 新しい発想でお客様の価値創造に貢献します]を実現するため、全世界のNittoグループ従業員が持つべき考え方が、[Creating Wonders]です。一人ひとりが驚きと感動を生み出すことに果敢に挑戦する、すなわち、Creating Wondersを日々実践し、さまざまな分野で世界を変える原動力を生み出し続けていく、これが私たちのビジョン(Vision)です。

## The Nitto Way

### ベースとなる考え方

[Mission: 新しい発想でお客様の価値創造に貢献します]および[Vision: Creating Wonders]を実現するため、全世界のNittoグループ従業員が身に付けるべき価値観、心構え、行動基準が「The Nitto Way」です。創業以来、Nittoグループを支えてきた諸先輩の想い・知恵・価値観は、長い歴史の中で積み重ねられ、私たちの中でDNAとなって脈々と受け継がれています。それを明文化したものが「The Nitto Way」です。私たちの判断基準であり、心の拠り所となっています。

#### 安全をすべてに優先

- ・あらゆる事故・災害をゼロにします。
- ・全員参加で、安全で安心な職場を築きます。

#### お客様へ驚きと感動を提供

- ・お客様の期待を超える「こんなものが欲しかった」の声をひきだします。
- ・お客様と共に、社会への新しい価値を創造します。
- ・お客様の満足度を起点とし、すべてのステークホルダーの繁栄につなげます。

#### 変化の先取り

- ・社会や市場の変化を感じられる現場に身を置きます。
- ・変化を感じたら、素早く行動につなげます。
- ・自分たちの強みを磨いて、お客様に一番に相談していただけるポジションを目指します。

#### 新しい価値創造へのチャレンジ

- ・失敗を恐れ何もしないより、たとえ一時は失敗したとしてもチャレンジし続けます。
- ・変化を面白がり、好奇心を持って一歩前へ踏み出します。

#### スピーディーに動き、やると決めたらやりきる覚悟

- ・まず、最初に半歩踏み出してみて、動きながら考えます。
- ・オープンに情報を共有し、フェアに議論し、やると決めたら一致団結してチーム力でベストを尽くします。
- ・日頃から、組織の壁や階層に捉われず、フランクで風通しがいいコミュニケーションに努めます。

#### 絶え間ない自己変革

- ・無・減・代の精神で、課題を先取りし、改革を実行、成長につなげます。
- ・変化し続けることが成長への原点だと捉えて、自らが変化し続けます。
- ・一人ひとりの変化が、全体の成長につながることを信じ、自分と未来に挑み続けます。

#### 誠実な姿勢と多様性への理解と尊重

- ・誠実さと謙虚さを行動の原点とし、ステークホルダーとの「尊敬と信頼」の構築に努めます。
- ・世界の従業員の多様性を認識し、相手を許容し、尊重します。

# 目次

## プロフィール

- 1 経営理念/目次・編集方針
- 3 Nittoグループの歩み
- 5 技術革新の歴史
- 7 Nittoグループの今
- 9 財務・非財務ハイライト

## トップメッセージ

- 11 トップメッセージ

## ビジネスモデル

- 17 Nittoグループのユニークさ
- 19 価値創造プロセス
- 21 サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)への取り組み

## 戦略

- 27 CTOが語るR&D戦略
- 31 次代を支えるイノベーション
- 33 財務政策
- 35 セグメント別情報

## 経営基盤

- 41 バリューチェーンで見る社会課題への対応
- 43 人財
- 46 製品安全・品質
- 49 環境

## ガバナンス

- 53 社外取締役座談会
- 57 役員・監査役紹介
- 62 コーポレートガバナンス
- 66 コンプライアンス
- 67 リスクマネジメント
- 68 新型コロナウイルス感染症による影響

## データセクション

- 69 10年間の業績概要
- 71 財務情報

- 73 株主・株式情報
- 74 社会貢献

#### 編集方針

Nittoグループはステークホルダーの皆様へ「社会課題解決と企業価値向上の両立」に向けた取り組みをお伝えすべく統合報告書を発行しています。Nittoグループの全体像をご理解いただけるよう、本報告書では成長の軌跡と現在の姿、将来に向けてどのように価値を共創するかについてまとめています。詳細・関連情報につきましては、ウェブサイトで開示していますので併せてご参照ください。本報告書は日本語および英語で発行しており、ウェブサイトからも閲覧いただけます。

#### 対象範囲

Nittoおよび子会社95社、関連会社2社を含む98社(2020年3月31日時点)

#### 対象期間

2019年度(2019年4月~2020年3月)一部、同期間以外の実績も含まれます。

#### 参考ガイドライン

本報告書は、以下のガイドラインを参考に作成しています。  
・Global Reporting Initiative(GRI)「サステナビリティ・レポート・スタンダード」  
・国際統合報告評議会(IIRC)「国際統合報告フレームワーク」

# Nittoグループの歩み

Mission「新しい発想でお客様の価値創造に貢献します」のもと、社会の変化をチャンスと捉え、驚きと感動を次々と生み出してきました。

絶縁材料の製造から始まったNittoグループ。お客様と共に歩み続け、基幹技術である粘着技術や塗工技術をベースに、エレクトロニクス業界や、自動車、住宅、インフラ、環境および医療関連などの領域において、さまざまな製品を提供することで成長してきました。

今、世界は社会課題がますます多様化・複雑化し、これまでにない速さで変化しています。このような中、Nittoグループは、社会課題解決と企業価値向上を両立し、人々のより快適な暮らしを実現していくことに挑戦し、世の中にとって必要とされる存在であり続けたいと考えています。

## 1918-1945

### 基礎づくりの時代

～東京大崎での絶縁事業基盤づくり～

1918年10月25日、「日東電気工業株式会社」を東京大崎に設立。時代の発展を支えるインフラとして、急速に普及していったのが電気でした。そして、電気設備や電気機械などに利用される電気絶縁材料について、国産化が急務である中、日東電気工業は、その一翼を担うために誕生しました。



リノテープ



電気絶縁用ワニス

## 1946-1960

### 第2の創業期

～戦後大阪茨木での再スタート～

東京大崎工場を戦災で焼失したものの、戦後大阪の茨木で再スタート。1956年、社は「一品一巻日東の総力、顧客奉仕に貫く日東」を制定。この考え方は今のブランドスローガン「Innovation for Customers」に連綿と引き継がれています。また、1957年には、現在まで続くNitto独自のマーケティング手法である「三新活動」がスタートしました。



ビニルテープ



マクセル乾電池

## 1961-1973

### 工業材メーカーとしての出発

～マクセル分離から～

1961年、消費財部門マクセルを分離し、工業材メーカーとしてさらなる飛躍を目指しました。1962年、国内の粘着テープ主力工場となる豊橋工場操業開始、1967年、関東工場操業開始と、製造拠点を増強。さらに、1968年日東電工アメリカ設立、1969年台湾日東電工設立(初の海外生産)と、海外にも進出しました。



両面接着テープ



フッ素樹脂テープ「ニトロロン」

## 1974-1988

### 多核化と海外展開

～医療、エレクトロニクスなどの分野へ進出、海外展開やM&A加速～

1973年のオイルショックによる影響を受け、いかなる景気変動にも耐えうる強固な企業体質を目指して多核化を推進。エレクトロニクス分野に加え、医療分野や膜事業分野に参入し、さまざまな製品を誕生させました。1974年、日東ベルギーを設立。1987年、膜事業の世界的な展開を図るため、米国・ハイドロノーティクス社を買収しました。創立70周年となる1988年、社名を日東電気工業株式会社から、日東電工株式会社に変更しました。



コロコロ®



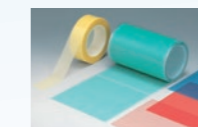
経皮吸収型テープ製剤

## 1989-2007

### 事業部制の導入からグローバルニッチトップ™戦略へ～継続的な成長を実現する経営基盤の確立～

1989年、事業部制を導入。顧客奉仕の原点に返り、ダイナミックな市場変化へのスピーディーな対応を図りました。1996年には、成長するマーケットを見極めて、Nittoが優位性を発揮できるニッチな分野に経営資源を投下しトップシェアを狙うグローバルニッチトップ™戦略もスタートしました。また、製品だけではなく、新しいビジネスモデル「ロールトゥーパネル®」\*1を開発。生産性アップ、梱包資材の低減、偏光板歩留りアップ、省人化などお客様に新しい価値を提供しています。

\*1 偏光板の原反をお客様の工程内にそのまま持ち込み、そこで切断、検査、ガラスの貼り合わせまでを一貫で行うビジネスモデル。



リバアルファ®



デミッシュ®

## 2008-

### Innovation for Customers

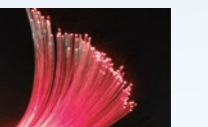
～快適な暮らしを支える会社としてのさらなる変革～

2008年に起きたリーマンショックは、われわれにも大きな影を落としました。ビジネス環境変化への素早い対応、「無・減・代」\*2と「車座」という独自の手法を駆使し、即座に回復し、その後大きく業績を伸ばしました。2013年、「日東電工」を「Nitto」と表記し、現在の企業ロゴに変更、2014年にはブランドスローガン「Innovation for Customers」を制定。2018年、Nittoは創立100周年を迎えました。

\*2 「無(む)・減(げん)・代(だい)」と称する「無くす」「減らす」「代える」の3つの視点からなるコスト構造の抜本的な改革を軸とした成長プラン。

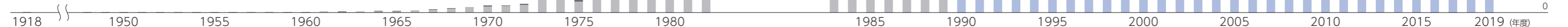


超薄型偏光板



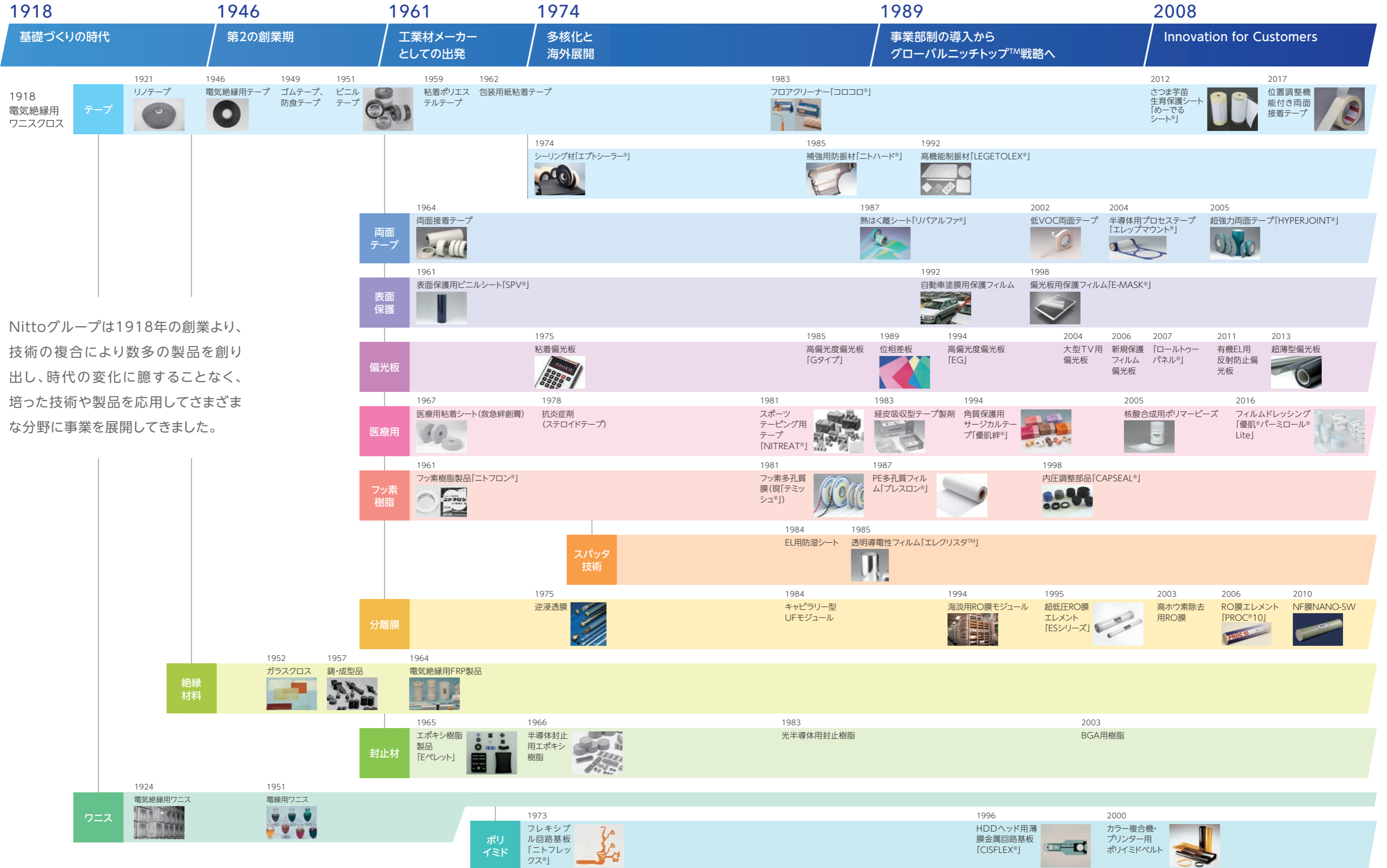
プラスチック光ケーブル

### 売上高\*3推移



\*3 2014年度より国際会計基準(IFRS)を導入したため、それ以降は「売上収益」を示しています。

# 技術革新の歴史



Nittoグループは1918年の創業より、技術の複合により数多の製品を創り出し、時代の変化に臆することなく、培った技術や製品を応用してさまざまな分野に事業を展開してきました。

# Nittoグループの今

## あらゆるところで生活を支える

Nittoは、まだ誰も挑戦したことのない分野においても、少し先の未来に想いをはせながらチャレンジを続けています。



### 住宅・住宅設備

住機能の高度化、太陽電池、蓄電池、家電製品の統合管理化など、住宅材料の供給や部材化を実施。



### 社会インフラ

海水淡水化など水資源保護のためのろ過膜の製造や新エネルギー分野における風力発電用材料の提供・開発。



### 医療

世界トップシェアを誇る核酸医薬品の原薬合成と、高い評価を受ける粘着技術を応用した経皮吸収医薬品を開発。



### 自動車・他輸送機器

軽量化、環境対策車のパワーモジュールの進化や安全・快適性を追求した電装化など、新たな付加価値の提供。



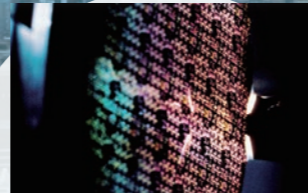
### 包装材料

梱包用テープ、仮止めテープ、はがしやすさが分かるセキュリティテープなど、多様なテープを用意。



### 消費財・生活関連材

粘着技術や多孔化技術を駆使し、暮らしを快適にする各種ハウスイエアや衛生用品用材料を提供。



### 電子デバイス

半導体/電子部品製造プロセス材料、光デバイス封止材料など、幅広い品揃えで製造工程や各部品への貢献。



### 家電・電子機器

不純物をほとんど含まない極薄シール材、ねじ固定に匹敵する強度の両面テープなどを提供。



### 素材

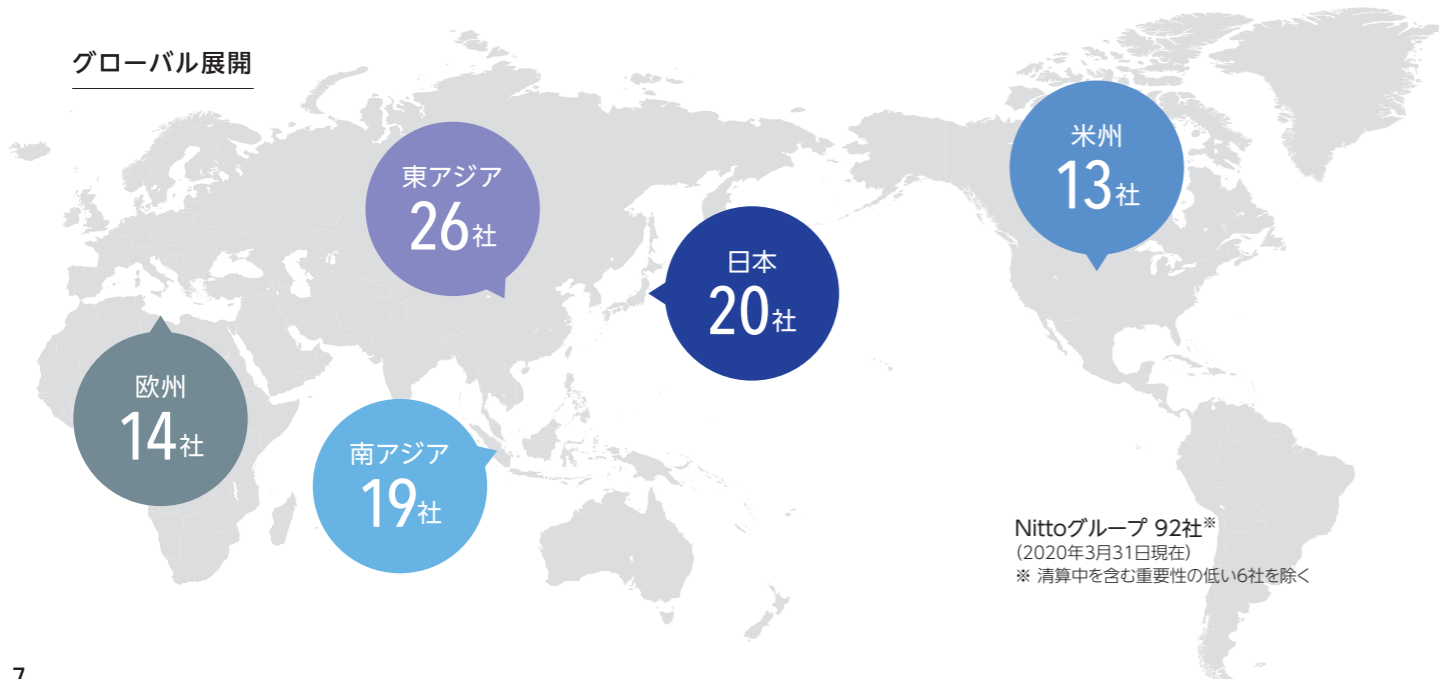
金属板・樹脂板・ガラス板など素材加工の分野へ、表面保護フィルムをはじめとする数多くの製品を提供。



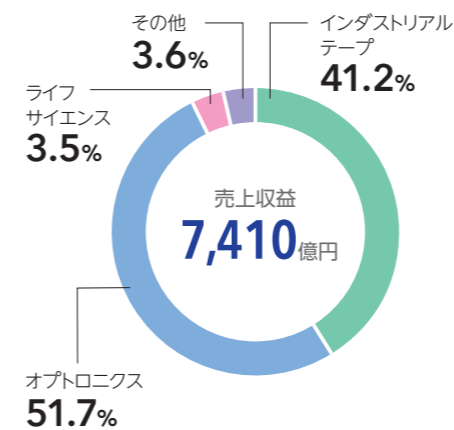
### ディスプレイ

ディスプレイ、タッチパネル用各種光学フィルムで、高画質化、長寿命化、薄型軽量化などのソリューションを提供。

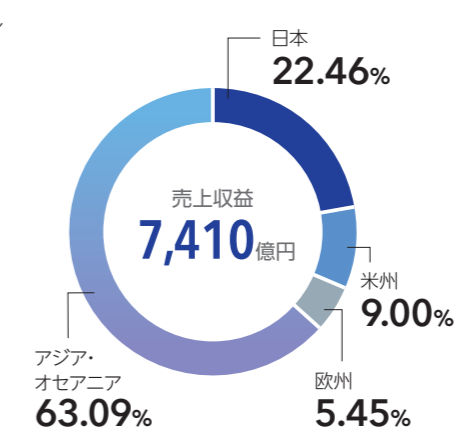
## グローバル展開



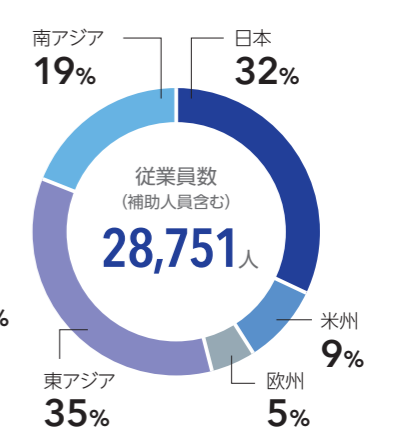
## セグメント別売上収益



## エリア別売上収益



## エリア別従業員比率

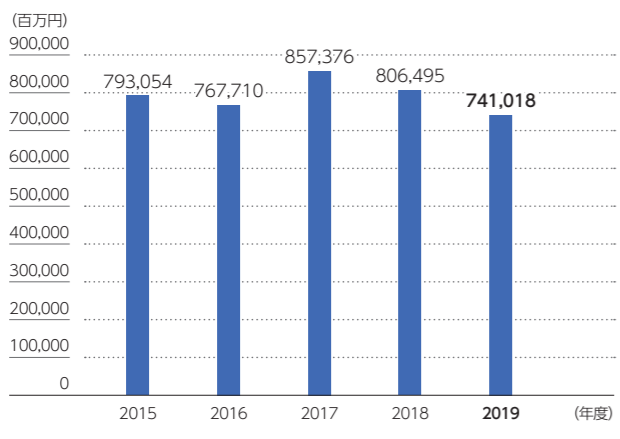


# 財務・非財務ハイライト

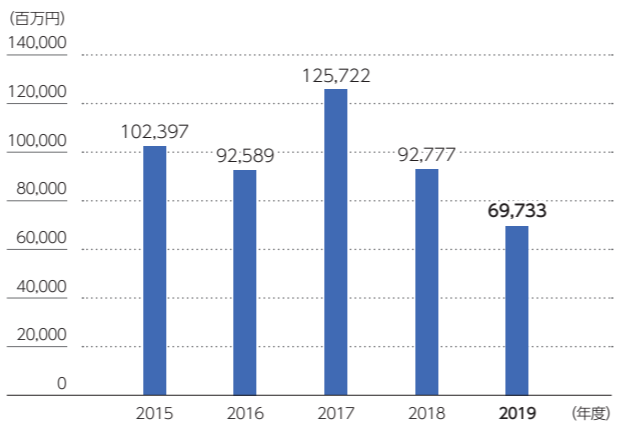
売上収益は2018年度と比較し、8.1%減(以下の比較はこれに同じ)の741,018百万円となりました。また、営業利益は24.8%減の69,733百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益は29.2%減の47,156百万円となりました。

重大・重要災害は7件発生し2018年度の12件から減少しました。CO<sub>2</sub>排出量は前年度より46,612ton削減し、758,903ton/年となりました。廃棄物等排出量、トルエン大気排出量についても減少傾向にあります。

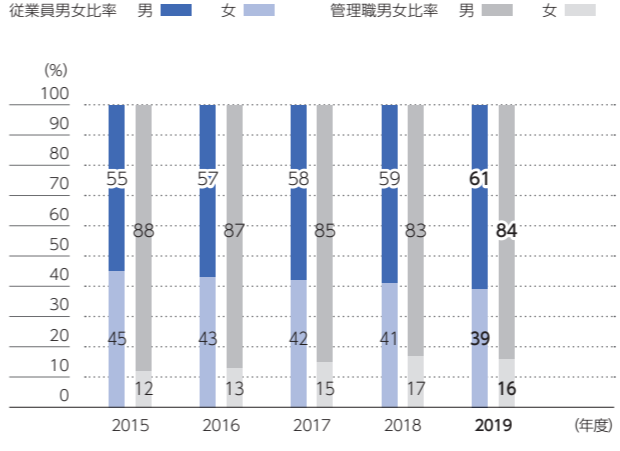
## 売上収益



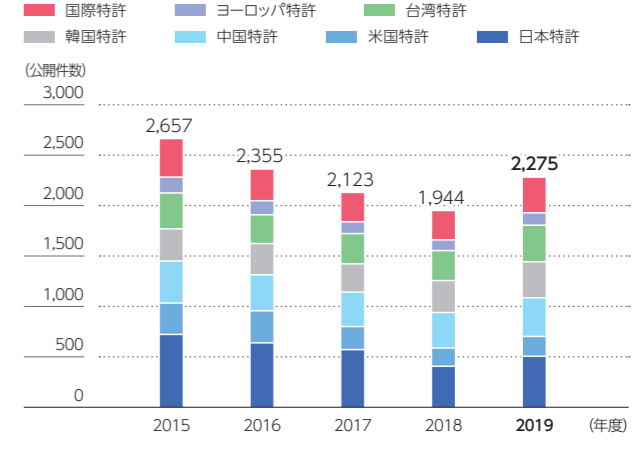
## 営業利益



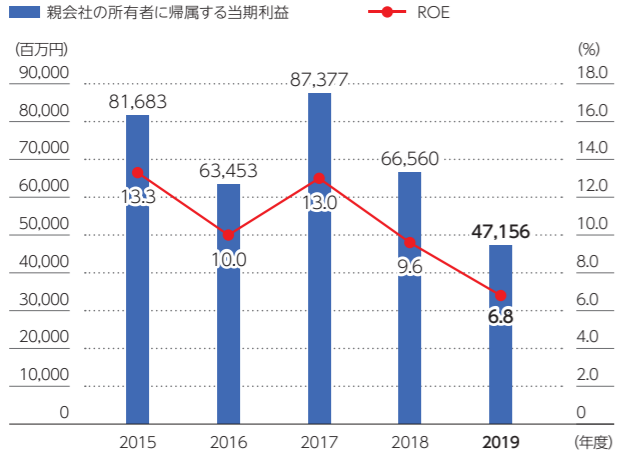
## 従業員、管理職男女比率



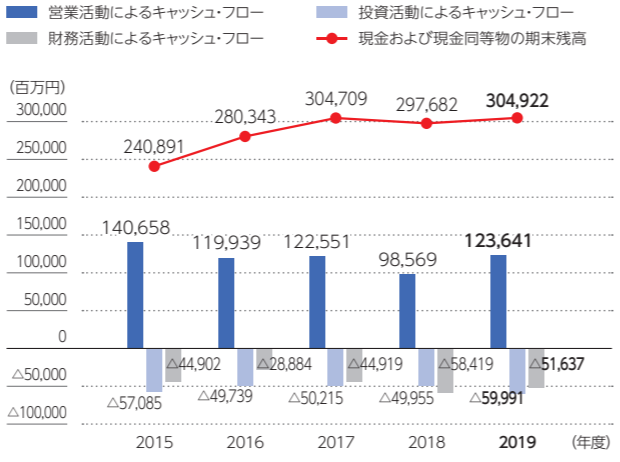
## 特許公開件数



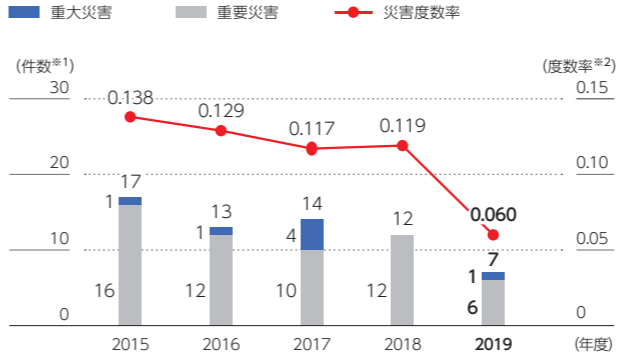
## 親会社の所有者に帰属する当期利益/ROE



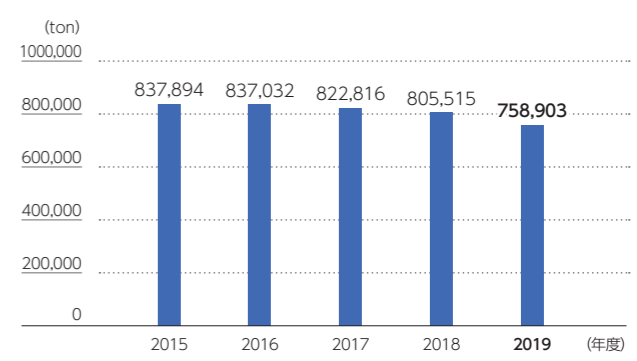
## キャッシュフロー



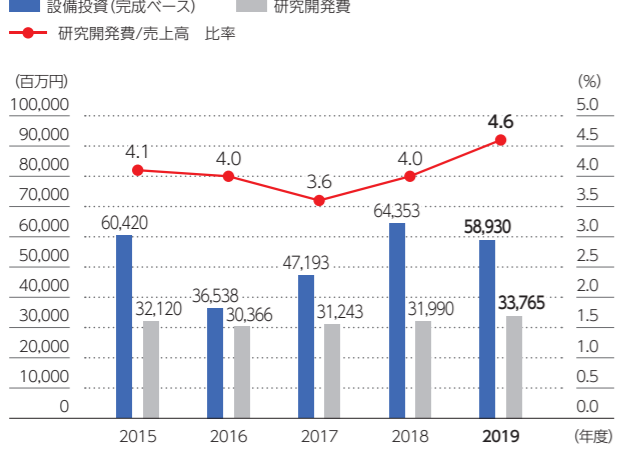
## 重大・重要災害発生件数



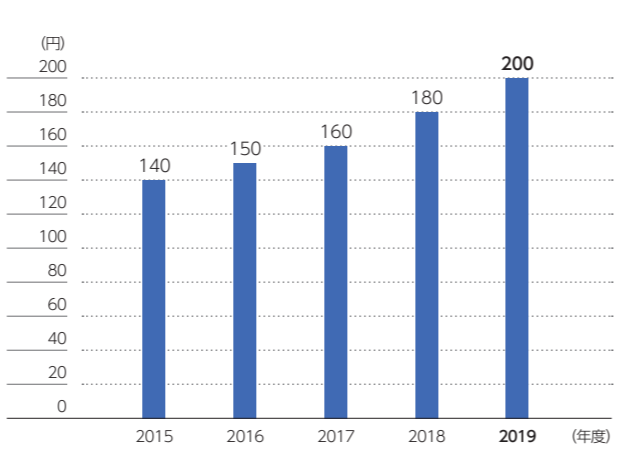
## CO<sub>2</sub>排出量 (Scope 1+2) <sup>\*3</sup>



## 設備投資と研究開発費



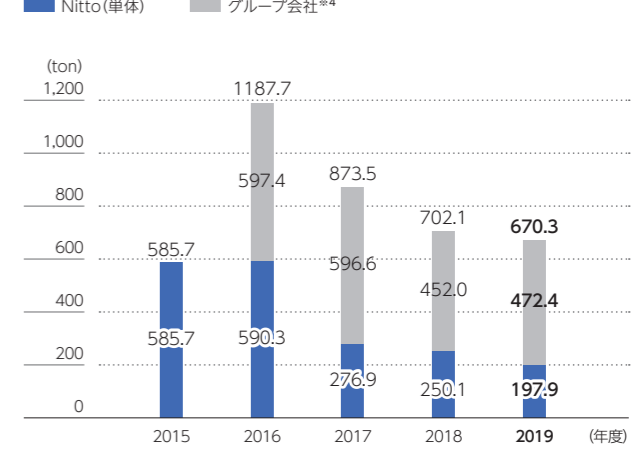
## 一株当たり配当金



## 廃棄物等排出量



## トルエン大気排出量



<sup>\*1</sup> 件数：構内で働くすべての人を対象。<sup>\*2</sup> 度数率：Nittoグループ従業員(派遣除く)を対象。100万労働時間あたりの災害発生件数。<sup>\*3</sup> 従来、電力事業者ごとの電力のCO<sub>2</sub>排出係数を把握できない海外子会社には「GHG Protocol, Purchased Electricity Tool ver.4.8(GWP 2014 IPCC 5th Assessment Report)」のCO<sub>2</sub>排出係数を適用していましたが、2019年度より、これらの海外子会社には「IEA, CO<sub>2</sub> emissions from fuel combustion」もしくは「EPA, Emissions & Generation Resource Integrated Database (eGRID)」のCO<sub>2</sub>排出係数を適用する方法に変更しました。この方法の変更は、2016年度実績まで遡及して適用しています。<sup>\*4</sup> グループ会社は、2016年度より集計しています。